

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-095938

(43)Date of publication of application : 09.04.1999

(51)Int.Cl.

G06F 3/12

B41J 29/38

G06F 13/00

(21)Application number : 09-251632

(71)Applicant : MINOLTA CO LTD

(22)Date of filing : 17.09.1997

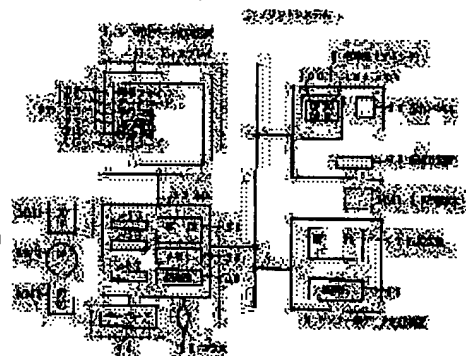
(72)Inventor : MARUTA SHUJI
IKENOUE YOSHIKAZU

(54) PRINTING SYSTEM USING COMMUNICATION LINE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To enable a user to correctly print only user's own image file by preventing the image file of another user from being printed when the user erroneously tries to print the image file.

SOLUTION: A center side data processor 4 allocates an ID code UC for identifying data codes DC transmitted from a user side data processor 5 to these data codes DC and transmits the allocated ID code UC to the device 5 of the User. A printer 3 has a reader 39 for inputting the data code and ID code on the side of the printer and when the code inputted from there is coincident with the transmitted code, a data file DF is transmitted from the center side data processor 4 to the printer 3 so as to execute print.



特開平 11-95938

(43) 公開日 平成 11 年 (1999) 1 月 1 日

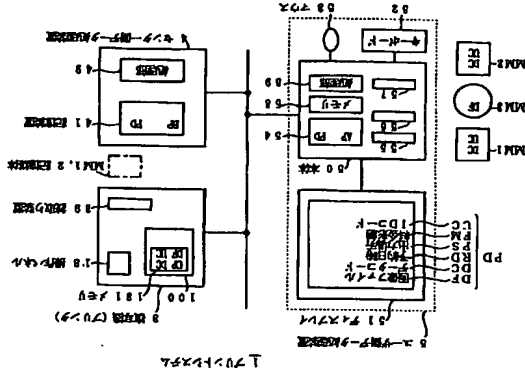
(51) Int. Cl. ⁸	識別記号	FI	種別記号
G06F 3/12		G06F 3/12	A
B41J 11/30		B41J 11/30	Z
G06F 13/00	354	G06F 13/00	354 D
審査請求 未請求	請求項の枚数 7	OL	(全 23 頁)
(31) 出願番号	特願平 4-551632	(71) 出願人	000004079 ミノルタ株式会社 大阪府大阪市中央区安土町二丁目 1 番 1 号 大阪国際ビル
(32) 出願日	平成 4 年 (1992) 1 月 1 日	(72) 発明者	丸田 修二 大阪府大阪市中央区安土町二丁目 1 番 1 号 大阪国際ビル ミノルタ株式会社内
		(73) 発明者	池ノ上 義和 大阪府大阪市中央区安土町二丁目 1 番 1 号 大阪国際ビル ミノルタ株式会社内
		(74) 代理人	弁理士 久保 幸雄 大阪府大阪市中央区安土町二丁目 1 番 1 号 大阪国際ビル ミノルタ株式会社内

(54) 【発明の名称】 通信回線を用いたプリントシステム

(57) 【要約】

【課題】 ユーザが誤って他のユーザの画像ファイルのプリントを実行させようとした場合にそれがプリントされるのを防止し、ユーザが自分の画像ファイルのみを正しくプリントできることを目的とする。

【解決手段】 センター側データ処理装置 4 は、ユーザ側データ処理装置 5 から送信されるデータコード D C に対してそれらを識別するために ID コード U C を割り当て、割り当てた ID コード U C を当該ユーザの装置 5 に送信する。プリンタ 3 は、プリンタ側においてデータコード D C を入力するための読取り装置 39 を有し、そこから入力されたコードと送信されてきたコードとが一致する場合には、センター側データ処理装置 4 からプリンタ 3 に対してデータファイル D F を送信してプリントを実行する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ユーザがプリントを希望するデータファイル及び前記データファイルを識別するデータコードを送信するためのユーザ側データ処理装置と、前記ユーザ側データ処理装置と通信回線によって結ばれたセンター側データ処理装置と、前記センター側データ処理装置と接続された前記データファイルのプリントを行うプリンタと、からなるプリントシステムであって、

前記センター側データ処理装置は、前記ユーザ側データ処理装置から送信される前記データファイル又は前記データコードに対してそれらを識別するために ID コードを割り当て、割り当てた ID コードを当該ユーザ側データ処理装置に送信する ID コード送信手段を有し、前記プリンタは、当該プリンタ側においてデータコード及び ID コードを入力するための入力手段を有し、前記プリンタから入力されたデータコード及び ID コードと前記ユーザ側データ処理装置から送信されたデータファイルに対応するデータコード及び当該データコードに対して割り当てられた ID コードとが一致する場合に、前記センター側データ処理装置から前記プリンタに対して当該データファイルを送信するように構成される、

ことを特徴とする通信回線を用いたプリントシステム。
【請求項 2】 前記センター側データ処理装置は、前記ユーザ側データ処理装置から送信されたデータコードを前記プリンタに送信するデータコード送信手段と、前記データコードに割り当てた ID コードと前記プリンタから送信されてきた ID コードとが一致するか否かを判断する ID コード比較判断手段と、を有し、

前記プリンタは、前記センター側データ処理装置から送信されてきたデータコードと前記入力手段により入力されたデータコードとが一致するか否かを判断するデータコード比較判断手段を有してなる、
請求項 1 記載の通信回線を用いたプリントシステム。
【請求項 3】 前記プリンタには、前記入力手段として、前記データコード及び前記 ID コードが書き込まれた記憶媒体を読み取る読取り装置が設けられている、
請求項 1 又は請求項 2 記載の通信回線を用いたプリントシステム。

【請求項 4】 前記ユーザ側データ処理装置、前記センター側データ処理装置、及び前記プリンタが、ネットワークによって互いに接続されてなる、
請求項 1乃至請求項 3 のいずれかに記載の通信回線を用いたプリントシステム。

【請求項 5】 ユーザがプリントを希望するデータファイルを送信するためのユーザ側データ処理装置と、前記ユーザ側データ処理装置と通信回線によって結ばれたセンター側データ処理装置と、前記センター側データ処理装置と接続された前記データファイルのプリントを行うプリンタと、からなるプリントシステムであって、

前記センター側データ処理装置は、前記ユーザ側データ処理装置から送信される前記データファイルを識別するためにそれらに対して付与された ID コードを記憶する記憶手段を有し、
前記ユーザ側データ処理装置は、前記 ID コードを前記記憶媒体に書き込むための書き込み装置を有し、
前記プリンタは、前記記憶媒体から ID コードを読み取って入力するための読取り装置を有し、

前記プリンタにおいて前記記憶媒体から読み取られた ID コードと前記記憶手段に記憶された ID コードとが一致する場合には、当該 ID コードに対応するデータファイルを前記センター側データ処理装置から前記プリンタに送信するように構成されてなる、
ことを特徴とする通信回線を用いたプリントシステム。

【請求項 6】 ユーザがプリントを希望するデータファイルを送信するためのユーザ側データ処理装置と、前記ユーザ側データ処理装置と通信回線によって結ばれたセンター側データ処理装置と、前記センター側データ処理装置と接続された前記データファイルのプリントを行うプリンタと、からなるプリントシステムであって、

前記センター側データ処理装置は、前記ユーザ側データ処理装置から送信される前記データファイルに対応してそれを識別するために ID コードを割り当て、割り当てた ID コードを当該ユーザ側データ処理装置に送信する ID コード送信手段を有し、
前記ユーザ側データ処理装置は、前記 ID コードを前記記憶媒体に書き込むための書き込み装置を有し、
前記プリンタは、前記記憶媒体から ID コードを読み取って入力するための読取り装置を有し、

前記プリンタにおいて前記記憶媒体から読み取られた ID コードと前記センター側データ処理装置で割り当てた ID コードとが一致する場合には、当該 ID コードに対応するデータファイルを前記センター側データ処理装置から前記プリンタに送信するように構成されてなる、
ことを特徴とする通信回線を用いたプリントシステム。

【請求項 7】 ユーザから通信回線を介して送信されるデータファイルをプリントするためのプリントシステムであって、

ユーザから送信される 1 つ又は複数のデータファイル及び前記各データファイルを識別するデータコードに対して、その識別のために ID コードを割り当て、割り当てた ID コードを当該ユーザに送信する ID コード送信手段と、
プリンタ側においてデータコード及び ID コードを入力するための入力手段と、

プリンタ側において入力されたデータコード及び ID コードと前記通信回線を介して送信されたデータコード及び当該データコードに割り当てられた ID コードとが一致するか否かを判断する判断手段と、

前記判断手段により一致すると判断された場合に前記データファイルをプリントするプリント手段と、有することを特徴とするプリントシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、ユーザ側のデータ処理装置とプリンタとを通信回線によって結び、ユーザ側のデータ処理装置から指定した画像ファイルを通信回線によってプリンタに送信してプリントするプリントシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、パーソナル通信の普及や画像ソフトの増加にともない、パーソナルコンピュータのユーザは、あらゆる種類の画像を容易に自らのディスプレイ画面上に表示させることが可能である。また、プリンタの性能の向上と低価格化によって、それらの画像を画紙上にプリントすることも容易である。

【0003】 しかし、カラーの画像が郵便写真に近い画質で得られるか、あるいはサイズの大きい用紙にプリントの可能な高性能のプリンタは、一般のユーザが個人で所有するにはまだ成面である。

【0004】 そこで、ユーザのパーソナルコンピュータと高性能のカラープリンタとを通信回線で結び、各ユーザがそのカラープリンタを共通に利用する形態と、各ユーザがそれぞれ専用の高性能のカラープリンタを所有し、少なくとも高画質のプリントを得ることを可能とするプリントシステムが提案されている（特開平9-39311号）。

【0005】 図19は従来のプリントシステム800の概要を示すブロック図である。図19においてプリンタ8000は、ユーザの使用するパーソナルコンピュータ802a～c、高性能のカラープリンタ804、カラープリンタ804を制御するためのプリンタ制御装置805、プリンタ制御装置805に付属するディスプレイ803、及び通信回線806から構成される。各パーソナルコンピュータ802a～cはそれぞれユーザの自宅に設置され、カラープリンタ804及びプリンタ制御装置805は例えばコンピュータに設置される。

【0006】 ユーザがプリントを希望する場合に、例えばパーソナルコンピュータ802aに対して画像ファイルDfAを入力し、同時にプリント予約の命令及びユーザ名を入力する。

【0007】 そうすると、パーソナルコンピュータ802aは、入力された画像ファイルDfAに対して画像ファイル番号903aを付与し、それをユーザ名とともにヘッドファイル902aとしてプリンタ制御装置805及びカラープリンタ804に送信する。したがって、プリンタ制御装置805及びカラープリンタ804には、各ユーザから送信されたヘッドファイル902a～cが

登録される。なお、この時点では画像ファイルDfAは未だ送信されない。

【0008】 次に、ユーザがコンピュータに出向き、プリンタ制御装置805及びカラープリンタ804に対してプリントの実行を指示する。すなわち、プリンタ制御装置805のディスプレイ803の画面には、各ユーザから送信された多数の画像ファイル番号903a～c及びユーザ名が表示される。

【0009】 ユーザは、その画面から自分のユーザ名と画像ファイル番号903aとを探し出し、押し出した画像ファイル番号903aに対してプリント実行の命令を入力する。そうすると、該当する画像ファイルDfAがパーソナルコンピュータ802aからカラープリンタ804に送信され、それがプリンタのメモリ807に記憶され、その後プリントが実行される。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、ディスプレイ803の画面には、多数のユーザについてのユーザ名及び画像ファイル番号903a～cが表示されている。したがって、ユーザはその中から自分の指定した画像ファイル番号を正しく選択しなければならないが、もしユーザが誤って他のユーザの画像ファイル番号を選択してプリントを実行させた場合には、その他の画像ファイルがプリントされてしまうことになる。

【0011】 このように、従来のユーザが誤った画像ファイルを選択してプリントを行ってしまうという可能性があり、その場合にはプリントされたものは無駄となってしまう。

【0012】 本発明は、上述の問題に鑑みてなされたもので、ユーザが誤って他のユーザの画像ファイルのプリントを実行させようとした場合にそれがプリントされるのを防止し、ユーザが自分の画像ファイルのみを正しくプリントすることのできる通信回線を用いたプリントシステムを得ることを目的とする。

【0013】

【課題を解決しようとする手段】 請求項1の発明に係るプリントシステムは、ユーザがプリントを希望するデータファイル及び前記データファイルを識別するデータカードを送信するためのユーザ側データ処理装置と、前記ユーザ側データ処理装置と通信回線によって結ばれたセンタ側データ処理装置と、前記センタ側データ処理装置と通信回線によって結ばれたセンタ側データ処理装置から前記データファイルのプリントを行う装置と接続され前記データファイルのプリントを行うプリンタと、からなるプリントシステムであって、前記センタ側データ処理装置は、前記ユーザ側データ処理装置から送信される前記データファイル又は前記データカードに対してそれらを識別するためにIDコードを割り当て、割り当てたIDコードを当該ユーザ側データ処理装置に送信するIDコード送信手段を有し、前記プリンタは、当該プリンタ側においてデータカード及びIDコードを入力するための入力手段を有し、前記プリンタが

入力されたデータカード及びIDコードと前記ユーザ側データ処理装置から送信されたデータファイルに対応するデータカード及び当該データカードに対応して割り当てられたIDコードとが一致する場合に、前記センタ側データ処理装置から前記プリンタに対して当該データファイルを送信するように構成される。

【0014】 請求項3の発明に係るプリントシステムは、前記センタ側データ処理装置は、前記ユーザ側データ処理装置から送信されたデータカードを前記プリンタに送信するデータカード送信手段と、前記データカードに割り当てたIDコードと前記プリンタから送信されたIDコードとが一致するか否かを判断するIDコード比較判断手段と、を有し、前記プリンタは、前記センタ側データ処理装置から送信されたデータカードと前記入力手段により入力されたデータカードとが一致するか否かを判断するデータカード比較判断手段を有してなる。

【0015】 請求項3の発明に係るプリントシステムでは、前記プリンタには、前記入力手段として、前記データカード及び前記IDコードが書き込まれた記憶媒体を読み取る読取り装置が設けられている。

【0016】 請求項4の発明に係るプリントシステムでは、前記ユーザ側データ処理装置、前記センタ側データ処理装置、及び前記プリンタが、ネットワークによって互いに接続されている。

【0017】 請求項5の発明に係るプリントシステムは、ユーザがプリントを希望するデータファイルを送信するためのユーザ側データ処理装置と、前記ユーザ側データ処理装置と通信回線によって結ばれたセンタ側データ処理装置と、前記センタ側データ処理装置と接続され前記データファイルのプリントを行うプリンタと、からなるプリントシステムであって、前記センタ側データ処理装置は、前記ユーザ側データ処理装置から送信される前記データファイルを読み取るためにそれらに対して付与されたIDコードを記憶する記憶手段を有し、前記ユーザ側データ処理装置は、前記IDコードを可読の記憶媒体に書き込むための書き込み装置を有し、前記プリンタは、前記記憶媒体からIDコードを読み取って入力するための読取り装置を有し、前記プリンタにおいて前記記憶媒体から読み取られたIDコードと前記記憶手段に記憶されたIDコードとが一致する場合に、当該IDコードに対応するデータファイルを前記センタ側データ処理装置から前記プリンタに送信するように構成される。

【0018】 請求項6の発明に係るプリントシステムは、前記センタ側データ処理装置は、前記ユーザ側データ処理装置から送信される前記データファイルに対応してそれを識別するためにIDコードを割り当て、割り当てたIDコードを当該ユーザ側データ処理装置に送信するIDコード送信手段を有し、前記ユーザ側データ処

理装置は、前記IDコードを可読の記憶媒体に書き込むための書き込み装置を有し、前記プリンタは、前記記憶媒体からIDコードを読み取り入力するための読取り装置を有し、前記プリンタにおいて前記記憶媒体から読み取られたIDコードと前記センタ側データ処理装置で割り当てたIDコードとが一致する場合に、当該IDコードに対応するデータファイルを前記センタ側データ処理装置から前記プリンタに送信するように構成される。

【0019】 請求項7の発明に係るプリントシステムは、ユーザから通信回線を介して送信されるデータファイルを送信するためのプリントシステムであって、ユーザから送信される1つ又は複数のデータファイル及び前記各データファイルを識別するデータカードに対して、その識別のためにIDコードを割り当て、割り当てたIDコードを当該ユーザに送信するIDコード送信手段と、プリンタ側においてデータカード及びIDコードを入力するための入力手段と、プリンタ側において入力されたデータカード及びIDコードと前記通信回線を介して送信されたデータカード及び当該データカードに割り当てられたIDコードとが一致するか否かを判断する判断手段と、前記判断手段により一致すると判断された場合に前記データファイルをプリントするプリント手段と、を有する。

【0020】 センタ側データ処理装置とプリンタとは、ユーザ側データ処理装置をも含めた共通のネットワークで結ぶことが可能である。また、センタ側データ処理装置とプリンタとを、センタ側データ処理装置とユーザ側データ処理装置との間を結ぶネットワークとは別の専用の回線によって結ぶことも可能である。また、1台のプリンタに対して1台のセンタ側データ処理装置を設けてこれらを接続しておき、ユーザがユーザ側データ処理装置からプリントを依頼する際に、当初からプリントを行うプリンタのセンタ側データ処理装置に対して必要なデータ又は情報を送信するようにしてもよい。プリンタとセンタ側データ処理装置とを一体に構成してもよい。センタ側データ処理装置又はプリンタにディスプレイを設け、データカードその他の情報を画面に表示し、またその画面の中からプリントの指定に必要な事項を選択するようにしてもよい。

【0021】 プリントシステムをクライアントサーバシステムとして実現してもよい。その場合に、例えば、ユーザ側データ処理装置はクライアントであり、センタ側データ処理装置はサーバであり、プリンタはサーバに接続されたプリンタ装置である。

【0022】 ユーザがプリンタ側から入力したIDコードUCについて、センタ側データ処理装置又はプリンタのいずれかにおいて比較（照合）を行うことが可能である。

【0023】 プリンタとして、デジタル式の複写機に備

えられたプリンタを用いることができる。また、ファクシミリ機能が付加されたプリンタなど、種々の形態のものを用いることが可能である。

【0024】データファイルには、画像データを格納した画像ファイル、テキストデータを格納したテキストファイル、その他の種々の形式のファイル、種々の圧縮方式により圧縮したファイルなど、データを格納した種々のファイル、データセット、又はデータベースが含まれる。

【0025】データコード及びIDコードを記録する記憶媒体として、フロッピーディスク、光磁気ディスク、ICカードなどを用いることができる。本明細書において、データコードとは、ユーザが自分のデータファイルと識別するためのものである。したがって、データコードとしてデータファイルのファイル名を用いてもよい。データコードには、数字、英文字、漢字、平仮名、片仮名などを用いることが可能である。

【0026】また、IDコードは、各ユーザ毎に割り当てられるコードであり、他のユーザには知られてはいないコードである。IDコードは、ユーザ個人に対して1つを割り当てることも可能であり、プリント依頼のための1回の送信を1つのユーザと考え、1回の送信に対して1つのIDコードを割り当てることも可能である。なお、プリント依頼のための1回の送信の中に、複数のデータファイルを含ませることが可能である。IDコードUCには、数字、英文字、漢字、平仮名、片仮名などを用いることが可能である。

【0027】ユーザは、自分の指定したデータファイルに対して得たIDコードを、プリンタ側において入力することによって、予め指定したデータファイルのプリントを行わせることができるのである。つまり、IDコードは、自分の指定したデータファイルを他人にプリントさせないようセキュリティを保持するための機能を有する。

【0028】なお、IDコードをプリンタ側において入力する方法として、IDコードを記憶媒体に記憶させておいてそれをプリンタの読取り装置で読み取って入力する方法、プリンタに備えられた操作パネルを操作して直接に又は間接的に入力する方法などがある。

【0029】センタ側データ処理装置又はユーザ側データ処理装置は、例えば所属パーソナルコンピュータ又はワークステーションに適切なプログラムをインストールし、それを実行することによって実現される。そのようなプログラムは、RAM、ROM、ハードディスク装置などに格納され、又はCD-ROM装置、光磁気ディスク装置、フロッピーディスク装置などによってそれぞれ対応する記憶媒体から読み出され、又は通信回線を介して他の情報源又はホストからダウンロードされる。プログラムは、種々のOS、システム環境、又はプラットフォームの下で動作するように供給可能である。

【0030】

【発明の実施の形態】図1は本発明に係るプリントシステム1の全体構成図である。図1に示すように、プリンタシステム1は、ユーザ側データ処理装置5a、5b、5c、センタ側データ処理装置4a、及び複写機3a、3bが、それぞれ通信回線6によって結ばれることによって構成されている。ユーザ側データ処理装置5a、5b、5c及び複写機3a、3bの台数は任意であり、本実施形態の台数に限定されない。

【0031】ユーザ側データ処理装置5a、5b、5cは、例えばそれぞれ異なるユーザの自宅に設置され、センタ側データ処理装置4は各ユーザから送信される各種データを集中的に管理するデータ管理センタに設置され、複写機3a、3bは、それぞれ異なる場所にあるコンビニエンスストアに設置される。また他の実施形態によるときは、ユーザ側データ処理装置5a、5b、5cは同じビル内の異なる部屋に設置され、センタ側データ処理装置4及び複写機3a、3bはそれぞれ同じビル内の部屋に設置される。ユーザ側データ処理装置5a、5b、5c、センタ側データ処理装置4、及び複写機3a、3bの全部又は一部を同一の部屋に設置することも可能である。通信回線6は、例えば公衆のアナログ回線、デジタル回線、専用回線、又はLAN、WAN、インターネットなどのネットワークである。

【0032】プリントシステム1は、ユーザ側データ処理装置5a、5b、5cのいずれかにおいて、ユーザは画像ファイルを読み出し可能にセットし且つ必要な事項を入力又は設定しておくことによって、複写機3a、3bのいずれかにおいてその画像ファイルの内容をプリントできるようにしたシステムである。

【0033】本実施形態において、画像ファイルとは、種々の形式又は圧縮形式の画像データを格納したファイル、及びテキストデータを格納したテキストファイルなどを総称したものである。複写機3a、3bは、それぞれイメージリニア部及びプリンタ部を備えたデジタル式カラー複写機であり、それらのプリンタ部を画像ファイルのプリントのために利用するものである。詳細は後述する。

【0034】なお、ユーザ側データ処理装置5a、5b、5c、及び複写機3a、3bは、それぞれ同様な構成及び機能を有するものである。以降においてはそれらのうちの1つについてのみ説明する。また、ユーザ側データ処理装置5a、5b、5c又は複写機3a、3bの全部又は一部を「ユーザ側データ処理装置5」「複写機3」と記載することがある。

【0035】図2はユーザ側データ処理装置5、センタ側データ処理装置4、及び複写機3の構成を機能的に示すブロック図である。図2において、ユーザ側データ処理装置5は、本体50、ディスプレイ51、キーボード52、及びマウス53から構成されている。ユーザ側

データ処理装置5として、例えばパーソナルコンピュータ又はワークステーションなどが用いられ、適当なプログラムがインストールされる。

【0036】本体50には、ハードディスク54、フロッピーディスク用のドライブ装置55、CD-ROM用のドライブ装置56、ICカード用のスロット57、メモリ58、処理装置59などが設けられている。

【0037】ドライブ装置55は、外部からセットされるフロッピーディスクである記憶媒体MM1に対してアクセスし、データの読み書きを行う。ドライブ装置56は、同じくCD-ROMである記憶媒体MM3に対してアクセスし、そのデータを読み込む。スロット57は、同じくICカードなどの記憶媒体MM2に対してデータの読み書きを行う。

【0038】ハードディスク54には、ユーザ側データ処理装置5における処理を行ってプリントシステム1を実現するためのプログラムAP、プリントを希望する画像ファイル(画像データ)DF、画像ファイルDFのプリントに必要な情報である画像プリント情報PD、その他のプログラム及びデータが格納される。これらのプリント又はデータの一部は、メモリ58に格納されることもある。また、ハードディスク54に格納されたプログラム及びデータは、通常、メインメモリにロードされる。

【0039】ディスプレイ51の画面に表示されるように、画像プリント情報PDは、画像ファイルDF、データコードDC、予約日時D、出力場所PS、料金形態FM、及びIDコードUCなどからなる。ディスプレイ51の画面に表示された場合の画像ファイルDFとは、そのファイル名のことである。

【0040】これらの画像プリント情報PDは、ディスプレイ51の画面表示にしたがってユーザがキーボード52又はマウス53を操作することによって入力される。ユーザは、自分がプリントを希望する画像ファイルDFについて、上述の事項を入力する。その際、複写機の画像ファイルDFを入力することが可能である。つまり、複数の画像ファイルDFのプリントを1つの画像プリント情報PDによって指定することができる。データコードDCは、各画像ファイルDFに対してユーザが指定する。但し、IDコードUCは、ユーザが入力するのではなく、画像プリント情報PDをセンタ側データ処理装置4に送信した後で、その返信としてセンタ側データ処理装置4から送信される。データコードDC及びIDコードDCの詳細については後述する。

【0041】画像プリント情報PDのうちIDコードUCを除く情報は、ユーザ側データ処理装置5において入力されるとハードディスク54又はメモリ58に格納され、その後、通信回線6を介してセンタ側データ処理装置4に送信される。なお、本明細書において、「画像プリント情報PD」と記載した場合には、画像プリント

情報PDを構成する総ての情報を指す場合もあり、そのうちの一部の情報、特にIDコードUCを除いた情報を指す場合もある。

【0042】処理装置59において、ハードディスク54に格納されたプログラムAPが実行され、後述する種々の処理が行われる。センタ側データ処理装置4は、ユーザ側データ処理装置5と同様に例えばパーソナルコンピュータやワークステーションなどからなる。その本体に接続されたハードディスク又はメモリなどの記憶装置41には、センタ側データ処理装置4における処理を行ってプリントシステム1を実現するためのプログラムBP、ユーザ側データ処理装置5から送信された画像プリント情報PD、センタ側データ処理装置4において生成したIDコードUCなどが格納される。

【0043】処理装置49において、プログラムBPが実行され、複写機3に対して画像プリント情報PDを送信し、また複写機3から送信されるデータコードDC及びIDコードUCと記憶装置41に格納したそれらとの比較を行うなど、後述する種々の処理を行う。

【0044】複写機3は、デジタル式のカラー複写機であり、原稿の画像を読み取ってその原稿の画像と同じ画像を再送するコピー装置としての機能と、センタ側データ処理装置4などのような外部機器から出力される画像ファイル(画像データ)を受信してその画像ファイルの内容である画像を再現するプリンタ装置としての機能とを合わせて備えている。したがって、複写機3には、通信回線6と接続するためのインタフェース及び通信制御装置などが備えられている。

【0045】複写機3には、操作パネル18、制御部100、及び記憶媒体読取り装置39などが設けられている。制御部100には、ハードディスク又は半導体メモリなどからなるメモリ131が設けられている。メモリ131には、プリントを制御するためのプログラムCP、操作パネル18から入力された記憶媒体読取り装置39によって記憶媒体MM1、2から読み取られたデータコードDC及びIDコードUC、並びにセンタ側データ処理装置4から送信された画像ファイルDF及び画像プリント情報PDの一部などが格納される。

【0046】なお、記憶媒体読取り装置39は、記憶媒体MM1、2などをセットすることによって、そこに記録されているデータコードDC及びIDコードUCを読み取って入力する。詳細は後述する。

【0047】図3は本発明に係る複写機3の全体の構成を示す図。図4は複写機3の原稿押さえ19を除いた状態でイメージリニア部10を上から見た図、図5は操作パネル18を示す図、図6はペンダライナ22を示す図、図7は制御部100の構成を示すブロック図である。

【0048】図3において、複写機3は、原稿の画像を読み取るイメージリニア部10、イメージリニア部10

で読み取った画像、又は外部機器から出力された画像ファイルの画像信号を受信してこの画像ファイルに対応する画像を再現するプリンタ部20、及びプリント料金の支払いに用いられるペンダラ装置200から構成される。

【0049】イメージリジューグ部10には、スキナ部11、原稿ガラス板16、原稿押さえ19、及び操作パネル18などから構成される。操作パネル18は、イメージリジューグ部10の前又は上面などに設けられる。

【0050】スキナ部11は、原稿を照射する露光ランプ12、原稿からの反射光を光束するロッドレンズアレイ13、及びロッドレンズアレイ13によって集光された光を電圧信号に変換する密着型のCCDカラーイメージセンサ（以下「CCDセンサ」という）14を備えている。

【0051】図4によく示されるように、原稿押さえ19は、その一切を軸として上下方向に開閉可能である。原稿押さえ19が開じられると、スキヤン時に原稿ガラス板16上に載置された原稿が動かないように固定される。また、原稿ガラス板16の左側には、シェーディング補正に使用される白基準板17が設けられている。

【0052】図3に戻って、原稿の読み取り時において、スキナ部11は、モータ15により駆動されて図3における矢印M1の方向に移動する。このとき、原稿ガラス板16上に載置された1枚の原稿に対して、イエロー（G）、マゼンタ（M）、シアン（C）、ブラック（K）の各再現色に対応して合計4回のスキヤンが行われる。CCDセンサ14には、図示しない赤（R）、緑（G）、青（B）のフィリターが設けられており、1回のスキヤンで同時に3色の読み取りを行う。

【0053】スキナ部11の露光ランプ12で照射された原稿の画像は、CCDセンサ14において光電変換され、赤（R）、緑（G）、青（B）の多値電気信号として制御部100に取り込まれる。なお、複写機3がプリンタ装置として使用される場合には、外部機器から送信された画像ファイルDIFの信号が、赤（R）、緑（G）、青（B）の多値電気信号として制御部100に取り込まれる。

【0054】プリンタ部20において、制御部100に取得された赤（R）、緑（G）、青（B）の多値電気信号は、最速な再現画像が得られるように、画像信号処理部120（図7参照）においてイエロー（Y）、マゼンタ（M）、シアン（C）、ブラック（K）の各再現色に1枚に変換される。

【0055】トナー現像部26は、マゼンタ（M）、シアン（C）、イエロー（Y）、ブラック（K）の各色のトナー現像剤26a～26dを備えている。トナー現像部26は、感光体ドラム22の回転に同期して図示しない昇降装置により上下駆動され、トナー現像剤26a～26dのうち静電潜像が形成された色成分のものが選択され、感光体ドラム22の表面上の静電潜像を現像する。

【0056】これらの各通色データーは、同じく制御部100のプリンタ制御部130（図7参照）において、感光体の階調特性に応じた補正（γ補正）やデーター処理が施されて、レーザーダイオードを内蔵するプリントヘッド部21に出力制御信号として出力される。プリントヘッド部21は、当該出力制御信号に基づいて通色データーに応じた強度のレーザー光を発し、各再現色ごとに感光体ドラム22の表面を露光する。

【0057】感光体ドラム22の表面は、上述した露光を受け取る前にクリヤーナ23によって残像トナーを除去され、さらにイレインサランプ24によって照射され除塵された後、荷電チャージャ25により一様に荷電される。感光体ドラム22の表面が一様に荷電された状態で露光を受けると、感光体ドラム22の表面の感光体に静電潜像が形成される。

【0058】トナー現像部26は、マゼンタ（M）、シアン（C）、イエロー（Y）、ブラック（K）の各色のトナー現像剤26a～26dを備えている。トナー現像部26は、感光体ドラム22の回転に同期して図示しない昇降装置により上下駆動され、トナー現像剤26a～26dのうち静電潜像が形成された色成分のものが選択され、感光体ドラム22の表面上の静電潜像を現像する。

【0059】各用紙カセット32、33には、それぞれ光電センサなどからなる用紙サイズ検出センサ37、38が設けられている。用紙サイズ検出センサ37、38の検出信号に基づいて、ユーザの指示又はプリンタ制御部130から送信された指示に対応したサイズのプリンタ用の用紙が用紙カセット32、33から供給される。用紙カセット32、33から供給された用紙は、その先端が転写ドラム28上のチャッキング機構34により把持され且つ吸着用チャージャ35により静電的に吸着され、位置ずれが生じない状態で転写ドラム28に巻き取られる。感光体ドラム22の表面上に現像された像は、転写チャージャ27によって、転写ドラム28に巻き付けられた用紙に転写される。

【0060】このような印字行程は、マゼンタ（M）、シアン（C）、イエロー（Y）、ブラック（K）の各色について繰り返して行われ、総ての色について印字が終了すると、分岐爪29が作動し、用紙は転写ドラム28の表面から分離される。

【0061】用紙に転写されたトナー像は、焼けるとすぐに剥がれる不安定な状態であるので、定着装置30において用紙を加熱しながら押圧することによりトナーを用紙の繊維の間に固定させて定着させる。その後、排紙トレイ31上に排出する。

【0062】図5において、操作パネル18には、デスキー181、プリントの可否を示す表示部182、用紙サイズを示す表示部183、用紙のサイズを選択する用紙選択キー184、コピー枚数又はプリント枚数を示す

表示部185、コピー又はプリントの開始を指示するスタートキー186、データーコード及びIDコードを入力するモードであることを示す表示部187、及びコード入力キー188が設けられている。

【0063】デスキー181は、複写機3をコピー装置として使用する場合にはコピー枚数を入力するために用いられ、プリンタ装置として使用する場合には、ユーザのコードであるデーターコード及びIDコードを入力するために用いられる。コード入力キー188は、データーコード及びIDコードを入力するモードを設定し又は解除するために用いられる。

【0064】表示用部187が消灯している状態においては、複写機3はコピー装置として使用可能である。表示部187が点灯している状態においては、複写機3はプリンタ装置として使用可能であり、デスキー181から入力されたコードはデーターコードとしてメモリ131に記憶される。また、データーコードを入力し終わると表示部187は点滅状態となり、デスキー181から入力されたコードはIDコードとしてメモリ131に記憶される。

【0065】図3に戻って、ペンダラ装置200には、ペンダラ制御部210及びペンダラパネル220が設けられている。ペンダラ制御部210は、ペンダラ装置200の動作を制御するものであり、複写機3の制御部100に接続されている。ペンダラパネル220は、図6に示すように、ユーザがプリント料金の支払いのためにコインを投入するコイン投入口222、及び投入されたコインの残額を表示する表示部221を備える。

【0066】次に、制御部100について説明する。図10、画像信号処理部120、プリンタ制御部130、及び時計IC140から構成される。

【0067】イメージリジューグ部110は、原稿読み取り時におけるイメージリジューグ部10の各動作を制御する。つまり、CCDセンサ14を駆動し、露光ランプ12のON/OFFの切替を制御し、モータ15を駆動してスキナ部11のスキヤン動作を制御する。

【0068】画像信号処理部120は、スキナ部11のCCDセンサ14から送られた赤（R）、緑（G）、青（B）の画像信号を処理して、マゼンタ（M）、シアン（C）、イエロー（Y）、黒（K）の再現色の画像データに変換し、最速な再現画像が得られるようにする。【0069】プリンタ制御部130は、プリンタ部20の各部の動作を制御するものであって、画像信号処理部120から出力された画像データについて、γ補正を行う。さらに階調表現法として多値化デヒザ法を用いる場合にはデヒザ処理を施して、プリントヘッド部21の出力を制御し、また、用紙カセット32、33からの給紙動作、感光体ドラム22や転写ドラム28の回転動作、トナー現像部26の上下動、及び各チャージャへの電荷

の供給などの各動作を同期をとりながら統一的に制御する。

【0070】次に、画像プリント情報PDについて説明する。図8はセンター側データ処理装置4の記憶装置41に格納された画像プリント情報PD1の構成の例を示す図、図9はデーターコードDCとIDコードUCとの関係を説明するための図である。

【0071】図8に示すように、画像プリント情報PD1として、データーコードDC、受信日時JT、送信日時ST、予約日時RD、料金形態FM、画像ファイルDIF、予約者無RI、消去現時間ET、及びIDコードUCが含まれている。

【0072】データーコードDCは、各ユーザがそれぞれの画像ファイルDIFを識別するためのものである。データーコードDCとして、通常、ユーザが、自分の管理する各画像ファイルDIFに対して、自身が覚えやすく且つユニークなコードを付与する。したがって、ユーザが自分で管理する画像ファイルDIFについては、画像ファイルDIFが異なるデーターコードDCも異なるが、他のユーザのデーターコードDCとの関係では、画像ファイルDIFの真面目に係わらず同じデーターコードDCが付与される可能性がある。データーコードDCとして、一般的には英数字が用いられるが、漢字、平仮名、片仮名を用いることも可能である。本実施形態においては、デスキー181からの入力が可能のように数字のみを用いることとなっている。なお、データーコードDCは、画像ファイルDIFのファイル名と同じであってもよい。したがって、データーコードDCに代えてファイル名を用いることも可能である。データーコードを「ユーザコード」と呼称することもある。

【0073】データーコードDCは、他のユーザに知られなくても構わないデーターである。複写機3においてデーターコードDCのリストを表示した場合には、各ユーザは、表示されたリストの中からプリントしたい自分のデーターコードDCを容易に選択することが可能である。なお、その場合には、実際にプリントを行うためには、データーコードDCとともに、次に説明するIDコードUCを入力する必要がある。

【0074】IDコードUCは、各ユーザ毎に割り当てられるコードであり、他のユーザには知られてはいけなコードである。本実施形態においては、画像プリント情報PDがセンター側データ処理装置4に送信される度に、それを1人のユーザとみなし、送信された1つのIDコードUCに対して1つのIDコードUCを割り当てるようになっている。なお、1つの画像ファイルDIFは1つのユーザとみなすことも可能である。

【0075】すなわち、画像プリント情報PDがユーザ側データ処理装置5からセンター側データ処理装置4に送信されたときに、センター側データ処理装置4において、1つの画像プリント情報PDに対して1つのIDコードUCを割り当てるようになっている。なお、1つのIDコードUCは、各ユーザ毎に割り当てられるコードであり、他のユーザには知られてはいけなコードである。本実施形態においては、画像プリント情報PDがセンター側データ処理装置4に送信される度に、それを1人のユーザとみなし、送信された1つのIDコードUCに対して1つのIDコードUCを割り当てるようになっている。なお、1つの画像ファイルDIFは1つのユーザとみなすことも可能である。

【0075】すなわち、画像プリント情報PDがユーザ側データ処理装置5からセンター側データ処理装置4に送信されたときに、センター側データ処理装置4において、1つの画像プリント情報PDに対して1つのIDコードUCを割り当てるようになっている。なお、1つのIDコードUCは、各ユーザ毎に割り当てられるコードであり、他のユーザには知られてはいけなコードである。本実施形態においては、画像プリント情報PDがセンター側データ処理装置4に送信される度に、それを1人のユーザとみなし、送信された1つのIDコードUCに対して1つのIDコードUCを割り当てるようになっている。なお、1つの画像ファイルDIFは1つのユーザとみなすことも可能である。

ードUCが自動的に生成される。生成されたIDコードUCは、センター側データ処理装置4において画像プリント情報PDの一部として記録され、且つユーザ側データ処理装置5へ返送される。

【0076】1つの画像プリント情報PDには、1つ又は複数のデータコードC、つまりプリントを希望する1つ又は複数の画像ファイルDFFが含まれるが、複数のデータコードC(画像ファイルDFF)が含まれた場合であっても、1つの画像プリント情報PDに対しては1つのIDコードUCが対応する。

【0077】ユーザは、自分の指定した画像プリント情報PDに対して得たIDコードUCを、複写機3において入力することによって、その画像プリント情報PDにより指定した画像ファイルDFFのプリントを複写機3に行わせることができるのである。つまり、IDコードUCは、自分の指定した画像ファイルDFFを他人にプリントさせないようセキュリティを保持するための機能を有する。

【0078】IDコードUCとして、英数字、漢字、平仮名、片仮名などを用いることが可能であるが、本実施形態においては、テンキー181からの入力が可能となるように数字のみを用いることとなっている。

【0079】図9に示すように、1つの画像プリント情報PDによって「A」「B」「C」の3つの画像ファイルDFFを指定した場合には、それらにそれぞれ1つのIDコードUC「1234」が生成され、生成されたIDコードUCがそのユーザに割り当てられる。この場合には、データコードC「111」「222」「333」のいずれに対しても、同じIDコードUC「1234」が対応する。

【0080】ユーザは、自分の入力したデータコードCと、それに対応するIDコードUCを覚えておく必要がある。そのためには、ディスプレイ5.1の画面に表示されたそれらをメモしておいてもよいのであるが、本実施形態においては、それらを記憶媒体MM1、2に記録することが可能である。しかも、記憶した記憶媒体MM1、2を複写機3の記憶媒体取り装置39にセットし、データコードC及びIDコードUCを記憶媒体MM1、2から直接的に複写機3に入力することができる。

【0081】したがって、データコードC及びIDコードUCを自分で覚えてメモする手間が省け、また複写機3において入力のために操作パネル18を操作する手間が省けるとともに、記憶違いや入力ミスによる間違いを防止し、データコードC及びIDコードUCを常に正確に入力することができる。

【0082】図8に示す、受信日時Jでは、センター側データ処理装置4が画像プリント情報PDを受信した日時であり、年月日時分がセンター側データ処理装置4の内蔵時計によって自動的に記録される。送信日時S

は、画像ファイルDFFを複写機3に送信した日時(年月日時分)である。予約日時RDは、ユーザがプリントを実行する日時を指定した場合のその日時(年月日時分)である。但し、予約日時RDとして年月日のみが指定され、時分が指定されなかった場合には、夜間プリントが指示されたものと見なされる。

【0083】料金形態FMは、プリント料金の支払形態を指定するものである。「前払い」「後払い」「一括込み済み」などが記録される。「前払い」又は「一括込み済み」とは、ユーザ側データ処理装置5からセンター側データ処理装置4に対して画像プリント情報PDを送信する際に、そのプリントに要する費用を予め支払った旨を示す。そのような料金の支払い方法として、電子マネー、電子バンキング、電子決済などと呼ばれるデータ通信による種々の支払い方法、又は予め開設した銀行口座からの引き落としなどによる支払い方法などが採用可能である。「前払い」又は「一括込み済み」とした場合には、例えば画像プリント情報PDがセンター側データ処理装置4に送信されそれに対してIDコードUCが付与された時点で、当該プリントに対する料金が引き落とされる。このように前払いとすることにより、ユーザにとっては、センター側データ処理装置4における当該画像プリント情報PDの保持時間が延長されるという利点がある。また、「後払い」とは、複写機3において実際にプリントを実行させる際に、例えばコイン投入口222にコインを投入して支払うことを示す。

【0084】画像ファイルDFFは、画像ファイルDFFの内容としての画像データである。しかし、一般に画像データは他のデータと比較してデータ量が極めて多いので、ここではファイル名のみを記録し、該データは別に保持するようにしてもよい。画像ファイルDFFが消された場合には「消去済み」と記録される。予約済無RIは、「有り」「無し」などのように、予約日時RDの記録に応じて記録される。消去現時間ETは、記憶装置4に格納された各画像プリント情報PDを消去するまでの残り時間(時分)を示す。

【0085】図10はプリントシステム1の処理及び操作を示すシーケンス図である。図10において、まず、ユーザはユーザ側データ処理装置5を操作し、プリントを希望する画像ファイルDFFを含む画像プリント情報PDを、センター側データ処理装置4に送信する(S1)。これによって、センター側データ処理装置4に対してプリントの依頼がなされる。なお、このときに、プリントの料金を電子的にセンター側データ処理装置4に対して送金又は決済することも可能である。

【0086】センター側データ処理装置4において、画像プリントPDを受信すると、各ユーザ毎に、つまり各画像プリント情報PD毎に、それぞれ異なるIDコードUCを生成し、生成した各IDコードUCを対応するユーザ側データ処理装置5に送信する(S2)。ユー

のプリント、及び他人による画像ファイルDFFの無断プリントなどが防止される。

【0094】ユーザが操作パネル18のスタートキー186を押すことにより、複写機3は指定した画像ファイルDFFのプリントを開始する(S9)。なお、ユーザは、予め所定の口座に料金の振込みを行っておくか、又はベンダー装置200のコイン投入口222にコインを投入するなどの方法で料金を支払う必要がある。

【0095】複写機3においてプリントが正常に終了すると(S11)、複写機3からセンター側データ処理装置4に対し、データ消去指示情報をデータコードCとともに送信する(S12)。センター側データ処理装置4において、データ消去指示情報を受信すると、そのデータコードCに対応する画像プリント情報PDを記憶装置4.1から消去する。これによって、記憶装置4.1の利用率が向上する。

【0096】また、複写機3でのプリント中に用紙不足などによってプリントが中断された場合には、複写機3からセンター側データ処理装置4にデータ保持指示情報を送信する(S10)。センター側データ処理装置4において、データ保持指示情報を受信すると、それに対応する画像プリント情報PDを消去するための時間カウンタを一時停止するか、又はカウンタ時間を延長する。

【0097】また、複写機3において画像ファイルDFFのプリントが行われない場合であっても、センター側データ処理装置4の記憶装置4.1に記録された画像プリント情報PDは、時間カウンタが終了したときに強制的に消去される。

【0098】ところで、夜間は複写機3の利用者が少なくており、しかも電気料金が安いので、夜間を狙ってプリントを行う場合がある。予約日時RDとして夜間が指定されていたり、また時刻の指定がない場合には、夜間に入ったときに自動プリント指示が行われる(S14)。

【0099】自動プリント指示が行われると、センター側データ処理装置4から複写機3に対し、自動プリント指示情報をデータコードC及び画像ファイルDFFとともに送信する(S15)。複写機3は、自動プリント指示情報を受信すると、その画像ファイルDFFのプリントを実行する。その際に、プリントを行った画像にデータコードCなどの情報を自動的に付加してもよい。この場合に、プリントされた用紙は、後日、該ユーザに料金引き替えに渡す。料金が振込み済みの場合であれば、ユーザがデータコードC及びIDコードUCを提示することによって入手することができる。

【0100】次に、プリントシステム1の各部の処理動作をフローチャートに基づいて説明する。図11はセンター側データ処理装置4における全体的な処理を示すフローチャート、図12は受信処理の内容を示すフローチャート、図13はデータ消去処理の内容を示すフローチャートである。これによって、誤った画像ファイルDFF

予約データ処理装置5において、受信したIDコードUCはディスプレイ5.1の画面に表示される。ユーザは、受信したIDコードUCを、記憶媒体MM1、2に記録する。記憶媒体MM1、2がない場合には、ユーザは画面に表示されたIDコードUCを覚えておく。

【0087】センター側データ処理装置4では、IDコードUCの送信を行うとともに、対象となる複写機3に対して、画像ファイルDFFを保持していることを示す情報(画像保持情報)をデータコードCとともに送信する。その際に、予約日時RD及び料金形態FMの情報を送信する(S3)。送信された情報は、複写機3のメモリ3.1に格納される。

【0088】これと同時に、受信した画像プリント情報PDの一式を消去するタイミングを得るための時間カウンタ(計時)を開始する(S4)。この時間カウンタが終了すると、そのIDコードUCに対応する画像ファイルDFFを消去し、対象の複写機3に対してデータコードC及び画像ファイルDFFを破壊したことを示す情報を送信する(S13)。

【0089】ユーザは、ユーザ側データ処理装置5から画像プリント情報PDを送信した後、それに対応して受信したIDコードUCを記録した記憶媒体MM1、2を保持し、指定した場所、例えば指定した複写機3のあるコンビニエンスストアに向く。

【0090】その複写機3において、ユーザは操作パネル18を操作し、且つ記憶媒体MM1、2を記憶媒体取り装置39にセットし、ユーザコードであるデータコードC及びIDコードUCを入力する(S5)。記憶媒体MM1、2がない場合には、操作パネル18からそれらを入力する。

【0091】ユーザコードが入力されると、複写機3において、入力されたデータコードCが、メモリ3.1に格納されているデータコードCの中に存在するか否かを照合し又はチェックし、存在する場合に、センター側データ処理装置4に対して、画像ファイルDFFを要求する情報(画像要求)をIDコードUCとともに送信する(S6)。

【0092】センター側データ処理装置4は、画像要求を受信すると、受信したIDコードUCと記憶装置4.1に記録したIDコードUCとを照合し、それらが一致しているか否かをチェックする(S8)。それらのIDコードUC及び対応するデータコードCが一致していれば、それに対応する画像ファイルDFF、料金の振込みが完了しているか否かの情報、及びデータコードCを、複写機3に送信する(S7)。

【0093】つまり、先にユーザ側データ処理装置5に送信したIDコードUCとユーザにより複写機3において入力されたIDコードUCとが一致する場合にはプリント可能であるが、一致しない場合にはプリントすることができない。これによって、誤った画像ファイルDFF

予約データ処理装置5において、受信したIDコードUCはディスプレイ5.1の画面に表示される。ユーザは、受信したIDコードUCを、記憶媒体MM1、2に記録する。記憶媒体MM1、2がない場合には、ユーザは画面に表示されたIDコードUCを覚えておく。

【0087】センター側データ処理装置4では、IDコードUCの送信を行うとともに、対象となる複写機3に対して、画像ファイルDFFを保持していることを示す情報(画像保持情報)をデータコードCとともに送信する。その際に、予約日時RD及び料金形態FMの情報を送信する(S3)。送信された情報は、複写機3のメモリ3.1に格納される。

【0088】これと同時に、受信した画像プリント情報PDの一式を消去するタイミングを得るための時間カウンタ(計時)を開始する(S4)。この時間カウンタが終了すると、そのIDコードUCに対応する画像ファイルDFFを消去し、対象の複写機3に対してデータコードC及び画像ファイルDFFを破壊したことを示す情報を送信する(S13)。

【0089】ユーザは、ユーザ側データ処理装置5から画像プリント情報PDを送信した後、それに対応して受信したIDコードUCを記録した記憶媒体MM1、2を保持し、指定した場所、例えば指定した複写機3のあるコンビニエンスストアに向く。

【0090】その複写機3において、ユーザは操作パネル18を操作し、且つ記憶媒体MM1、2を記憶媒体取り装置39にセットし、ユーザコードであるデータコードC及びIDコードUCを入力する(S5)。記憶媒体MM1、2がない場合には、操作パネル18からそれらを入力する。

【0091】ユーザコードが入力されると、複写機3において、入力されたデータコードCが、メモリ3.1に格納されているデータコードCの中に存在するか否かを照合し又はチェックし、存在する場合に、センター側データ処理装置4に対して、画像ファイルDFFを要求する情報(画像要求)をIDコードUCとともに送信する(S6)。

【0092】センター側データ処理装置4は、画像要求を受信すると、受信したIDコードUCと記憶装置4.1に記録したIDコードUCとを照合し、それらが一致しているか否かをチェックする(S8)。それらのIDコードUC及び対応するデータコードCが一致していれば、それに対応する画像ファイルDFF、料金の振込みが完了しているか否かの情報、及びデータコードCを、複写機3に送信する(S7)。

【0093】つまり、先にユーザ側データ処理装置5に送信したIDコードUCとユーザにより複写機3において入力されたIDコードUCとが一致する場合にはプリント可能であるが、一致しない場合にはプリントすることができない。これによって、誤った画像ファイルDFF

(11) 特開平11-95938

10

れた時間の10分前に達している場合に(＃406でイエス)、それに対応する画像プリント情報PDを自動プリント指示情報とともに複写機3に送信する(＃410)。

【0108】なお、予約日時RDによって指定された時間の10分前に達している場合に画像プリント情報PDを複写機3に送信するが、その場合に、自動プリント指示を送ることなく、画像ファイルDFの情報のみを複写機3に送信しておいてもよい。このようにすることによって、ユーザが複写機3においてプリントのための指示を行う際に、画像ファイルDFの送信を待つ必要がなく、それだけ迅速にプリントを行うことができ能率的である。

【0109】予約があっても時間の指定がない場合には、現在が夜間であるか否かを判断する(＃408)。夜間であるか否かの判断においては、現在の時刻が例えば午後10時～午前3時の間である場合に夜間とすると、ステップ＃408でイエスである場合には、つまり現時点が夜間である場合には、ステップ＃410において画像ファイルDFを自動プリント指示情報とともに複写機3に送信する(＃410)。

【0110】図15は複写機3における全体的な処理を示すフローチャート、図16は画像要求処理の内容を示すフローチャート、図17はデータ消去処理の内容を示すフローチャート、図18はプリント処理の内容を示すフローチャートである。

【0111】これらの処理は、複写機3のメモリ131に格納されたプログラムCPの実行により行われる。図15において、複写機3に通電すると、まず、このルーチンの1ルーチン分の時間を規定するタイマーを設定する(＃500)。そして、センタ側データ処理装置4に画像ファイルDFを要求する画像要求処理(＃600)、受信した画像ファイルDFなどを破棄するデータ消去処理(＃700)、センタ側データ処理装置4からの画像ファイルDFの受信と受信した画像ファイルDFのプリントを行うプリント処理(＃800)、その他の処理(＃900)を順次行い、一定時間を計時したときに(＃999でイエス)ステップ＃600に戻る。

40 【0112】図16において、操作パネル18のコード入力キー188が押されたか否かを判断し(＃602)、コード入力キー188が押される度に、表示部187の点灯と消灯とを切り替える(＃604、606、608)。表示部187が点灯すると、ユーザコード、つまりデータコードDC及びIDコードを入力するモードとなる。

【0113】デンキー181からの入力があったときに(＃610でイエス)、表示部187が点灯していれば(＃612でイエス)、入力された数値列をデータコードDCとしてメモリ131に記憶する(＃614)。入

50

(12) 特開平11-95938

11

力されたデータコードDCのチェックが行われ、一致するデータコードDCがあれば(＃616でイエス)、表示部187を点滅状態とする(＃618)。

【0114】表示部187が点滅状態のときにデンキー181からの入力があると(＃610でイエス、＃612でノー、＃620でイエス)、入力された数値列をIDコードUCとしてメモリ131に記憶する(＃622)。そして、センタ側データ処理装置4へ画像要求を送信し(＃624)、その後、表示部187を消灯する(＃626)。

【0115】また、記憶媒体取り装置39に記憶媒体MM1、2がセットされていることが検知されると(＃628)、記憶媒体MM1、2からデータコードDC及びIDコードUCをロードする(＃630)。ロードされたデータコードDCのチェックが行われ、一致するデータコードDCがあれば(＃632でイエス)、センタ側データ処理装置4へ画像要求を送信する(＃634)。

【0116】図17において、センタ側データ処理装置4からデータ破棄情報を受信したか否かを判断する(＃702)。データ破棄情報を受信した場合には、ユーザが一旦はプリントを希望したにも関わらず所定の時間内又は期間(例えば数日間)内にプリントを実行させなかったものであるから、プリントを行う意思がないものとみなし、複写機3のメモリ131に記憶しているデータコードDCを削除する(＃710)。その後、データコードDCに対応する画像ファイルDFをメモリ131に保持している場合には、その画像ファイルDFも消去する(＃714)。

【0117】ステップ＃702でデータ破棄情報を受信してなかった場合には、複写機3でのプリントを終了しているか否かを判断する(＃704)。プリントを終了している場合には、ステップ＃710でデータコードDCを削除する。プリントが終了していない場合には、投入したコインを総て返却したか否かを判断し(＃706)、コインを総て返却している場合は、総てのプリントを終了する前に中断したとみなし、センタ側データ処理装置4に対し画像プリント情報PDを出すには消去しないようにデータ保持のための指示を出す(＃712)。

【0118】ステップ＃706でコインの返却作業がなかった場合には、センタ側データ処理装置4からデータコードDCを受信してからタイマー-TM1による計時時間が経過したか否かを判断する(＃708)。計時時間が経過したか否かを判断する(＃708)。計時時間が経過したとみなし、ステップ＃712でデータ保持指示を送信する。

【0119】図18において、まず、画像保持情報及びデータコードDCをセンタ側データ処理装置4から受信したか否かを判断する(＃802)。受信した場合には、各ユーザ毎に画像データを消去するための時間計測を行うタイマー-TM1をセットし、その計時を開始する(＃804)。また、受信したデータコードDCをメモリ131に記憶する(＃806)。メモリ131に記憶されたデータコードDCは後で複写機3においてユーザが入力するデータコードDCと比較される。

【0120】受信したデータの中に予約日時RDの情報が含まれている場合には(＃808でイエス)、受信した画像ファイルDFをメモリ131に記憶する(＃810)。

【0121】次に、ユーザが複写機3のところまで出てきて操作パネル18のスタートキー186を押したか否かを判断する(＃812)。スタートキー186が押された場合には、料金が返込み済みであるか(＃816でイエス)又は必要なコインをコイン投入口222に投入しており(＃818でイエス)、他のプリント条件が総て整っている場合に(＃820でイエス)、該当するタイマー-TM1をリセットし(＃822)、プリントの実行を開始する(＃824)。

【0122】ステップ＃812でスタートキー186が押されていない場合には、センタ側データ処理装置4から自動プリント指示を受信したか否かを判断し(＃814)、自動プリント指示を受信していれば、ステップ＃816以降を実行する。

【0123】上述の実施形態のプリントシステム1によると、ユーザがユーザ側データ処理装置5からセンタ側データ処理装置4に画像プリント情報PDを送信してプリントの依頼を送ったときに、その依頼に対応してセンタ側データ処理装置4からIDコードUCが与えられる。複写機3において実際にプリントを行う際に、画像プリント情報PDに含まれたデータコードDCとともにこのIDコードUCのチェックが行われる。したがって、ユーザは、IDコードUCによって、プリント依頼した画像ファイルDFを自分で間違いないプリントすることができるとともに、他人が自分の画像ファイルDFを間違えてプリントすることを防止することができる。

【0124】また、プリントを依頼したユーザは、データコードDC及びIDコードUCを記憶媒体MM1、2に記憶し、その記憶媒体MM1、2を持って複写機3にデータコードDC及びIDコードUCを直接的に入力することができるから、データコードDC及びIDコードUCの入力が容易に且つ正確に行われる。

【0125】ユーザがユーザ側データ処理装置5からセンタ側データ処理装置4へ送信した画像ファイルDFは、複写機3で実際にプリントするまではセンタ側データ処理装置4において記憶され、ユーザが複写機3にIDコードUCを入力した後で複写機3に転送されてく

るので、多数のユーザがプリントを依頼した場合でも複写機3に必要な記憶容量はそれほど多くなくなること

く、複写機3のメモリ容量の増大すなわちコストの増大を抑えることができる。

【0126】上述の実施形態において、ユーザ側データ処理装置5からセンター側データ処理装置4に画像プリント情報PDを送信する際に、画像プリント情報PDとして画像ファイルDFをも含めているが、このときの画像プリント情報PDに画像ファイルDFを含めることなく、複写機3から画像要求があった後で、ユーザ側データ処理装置5からセンター側データ処理装置4を経由して又は複写機3に直接に画像ファイルDFを送信するようにしてもよい。このようにすると、センター側データ処理装置4における記憶容量を減少させることができる。

【0127】上述の実施形態において、センター側データ処理装置4と複写機3とを、ユーザ側データ処理装置5をも含めた共通のネットワークで結ぶことも可能であり、また、センター側データ処理装置4と複写機3とを、センター側データ処理装置4とユーザ側データ処理装置5との間をネットワークとは別の専用の回線によって結ぶことも可能である。また、1台の複写機3に対して1台のセンター側データ処理装置4を設けてこれらを接続しておき、ユーザがユーザ側データ処理装置5からプリントを依頼する際に、当初からプリントを行う複写機3のセンター側データ処理装置4に対して画像ファイルDFを送信するようにしてもよい。また、複写機3とセンター側データ処理装置4とを一体に構成してもよい。プリントシステム1をクライアントサーバシステムとして実現してもよい。

【0128】上述の実施形態において、ユーザが複写機3から入力したIDコードUCは、一旦センター側データ処理装置4に送渡されてセンター側データ処理装置4の記憶装置41に記憶されたIDコードUCと照合するようになっているが、センター側データ処理装置4の記憶装置41に記憶されたIDコードUCを複写機3に送渡し、それらの照合を複写機3において行ってもよい。【0129】上述の実施形態において、画像ファイルDFをプリントするためにデジタル式の複写機3を用いたが、単体のプリント装置を用いてもよい。つまり、例えば、センター側データ処理装置4に高性能のプリント装置を接続して用いることも可能である。また、ファクシミリ機能が付加された装置など、画像ファイルDFをプリント可能な種々のプリンタ装置を用いることが可能である。

【0130】上述の実施形態において、ユーザ側データ処理装置5、センター側データ処理装置4、及び複写機3の構造、回路、機能、操作方法、処理内容又は順序、それぞれのフローチャートの内容又は順序、処理の分組などは、本発明の主旨に沿って適宜変更することができる。

【0131】

【発明の効果】本発明によると、ユーザが誤って他のユーザの画像ファイルのプリントを実行させようとした場合にそれがプリントされるのを防止し、ユーザが自分の画像ファイルのみを正しくプリントすることができる。【0132】請求項3、5、及び6の発明によると、データコード及びIDコードを自分で覚えたりメモする手順が省け、またプリント側において入力のための操作の手間が省けるとともに、記憶違いや入力ミスによる間違いを防止し、データコード及びIDコードを常に正確に入力することができる。

【0133】請求項4の発明によると、多数のユーザ側データ処理装置からのプリントの要求を複数のプリントのいずれかで受けてプリントを行うことができ、利便性がさらに向上する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るプリントシステムの全体構成図である。

【図2】プリントシステムの機能を詳細に示すブロック図である。

【図3】本発明に係る複写機の全体の構成を示す図である。

【図4】複写機のイメージリジダ部を上方から見た図である。

【図5】複写機の操作パネルを示す図である。

【図6】複写機のペンダパネルを示す図である。

【図7】複写機の制御部の構成を示すブロック図である。

【図8】センター側データ処理装置に記憶された画像プリント情報の構成の例を示す図である。

【図9】データコードとIDコードとの関係を説明するための図である。

【図10】プリントシステムの処理及び操作を示すシーケンス図である。

【図11】センター側データ処理装置における全体的な処理を示すフローチャートである。

【図12】受信処理の内容を示すフローチャートである。

【図13】データ消去処理の内容を示すフローチャートである。

【図14】自動プリントの内容を示すフローチャートである。

【図15】複写機における全体的な処理を示すフローチャートである。

【図16】画像要求処理の内容を示すフローチャートである。

【図17】データ消去処理の内容を示すフローチャートである。

【図18】プリント処理の内容を示すフローチャートである。

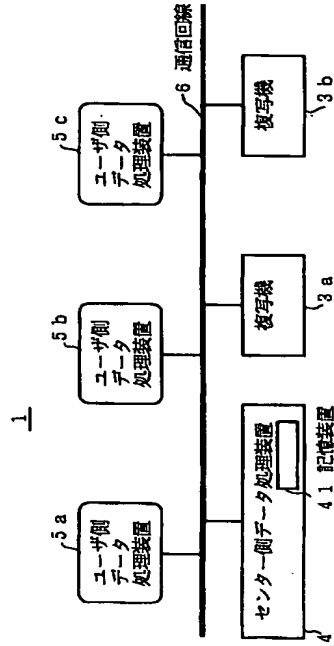
【図19】従来におけるプリントシステムの構成を示す

ブロック図である。

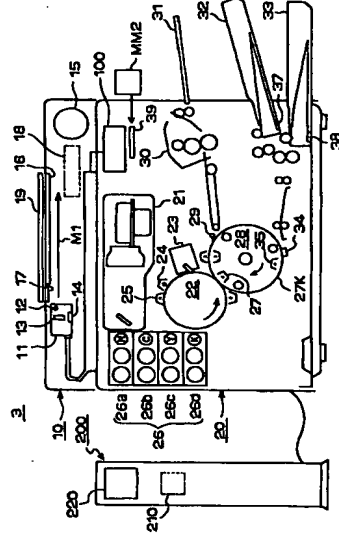
【符号の説明】

- 1 プリントシステム
- 3 複写機 (プリンタ)
- 4 センター側データ処理装置
- 5 ユーザ側データ処理装置
- 6 通信回線 (ネットワーク)
- 18 操作パネル (入力手段)
- 20 プリント部 (プリンタ)
- 39 記憶媒体読取り装置 (入力手段、読取り装置)

【図1】



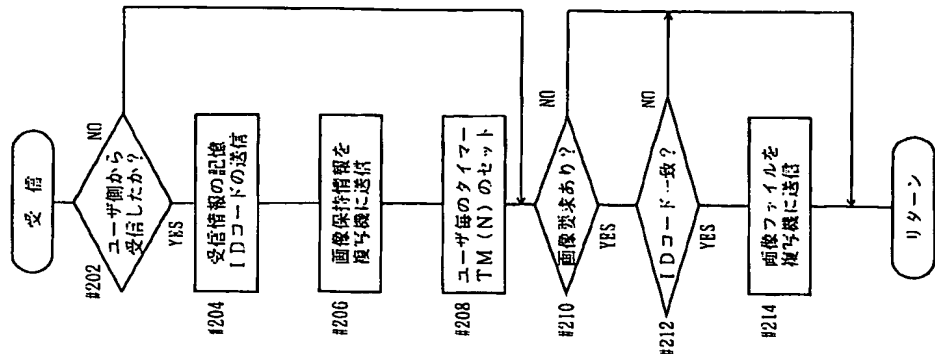
【図3】



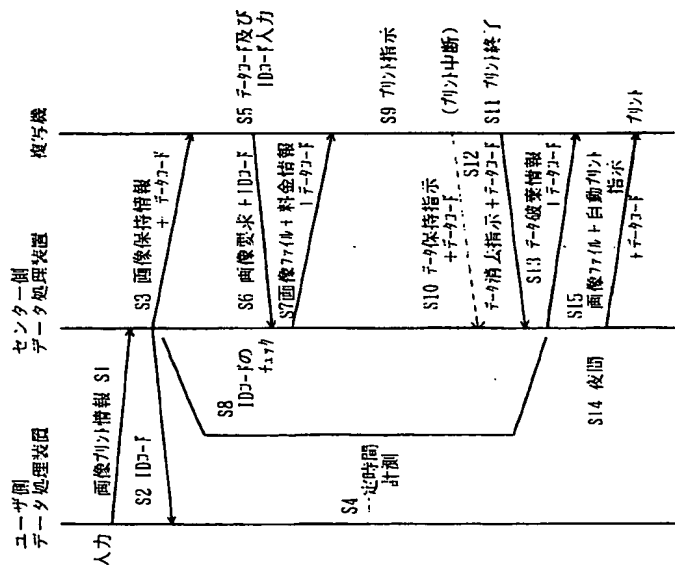
【図9】

No.	機能	データコード	UC
1	A	111	1134
2	B	222	1234
3	C	333	1335
4	D	444	1435
5	E	555	1535
6	F	666	1635
7	G	777	1735
8	H	888	1835

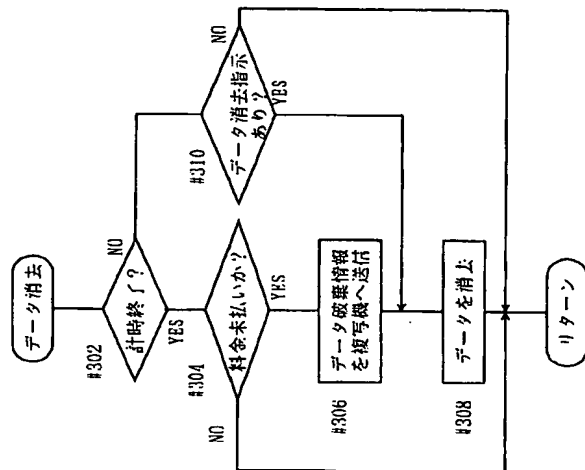
【図12】



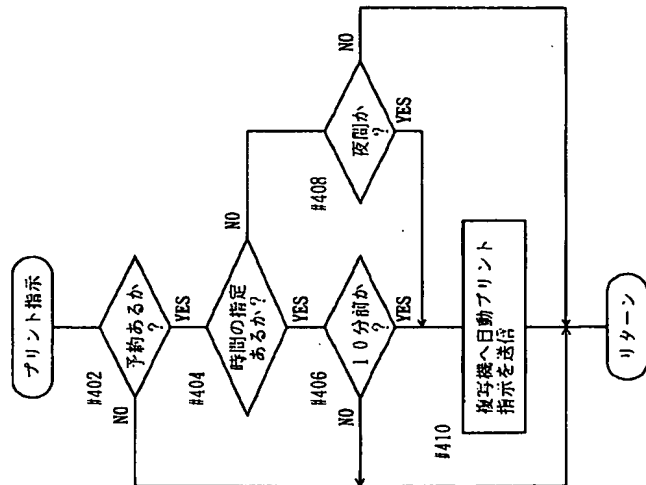
【図10】



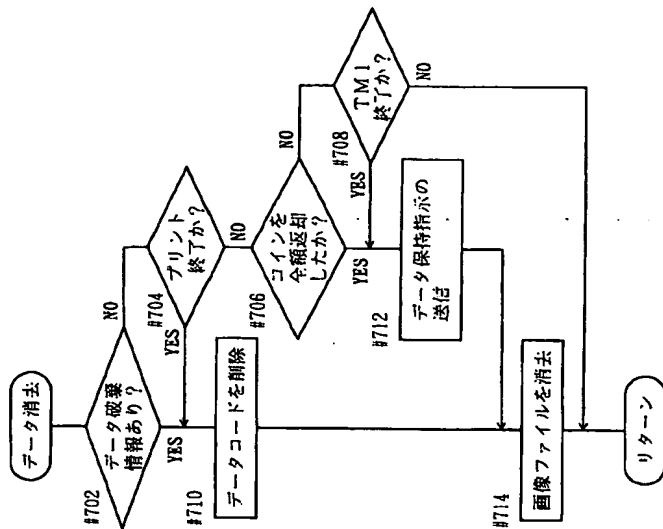
【図13】



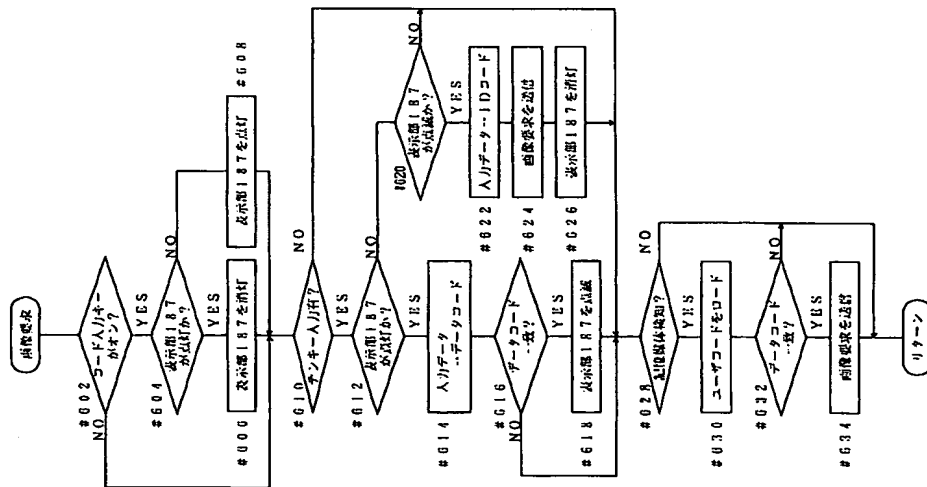
【図14】



【図17】



【図16】



【図18】

